

Wellbeing-Based Policy Design (WBPD)

OASIS研修 成果発表

所属組織名： 加古川市 3 班

氏名：	産業振興課	西川 和男	地域福祉課	濱田 靖子
	土木総務課	水野 あすか	経営管理課	田口 清也
	教育総務課	窪田 卓也		



Smart City
Institute Japan

アサメントシート2 地域幸福度に関する簡易版SWOT分析ワークシート

	T (脅威)	O (機会)
S (強み)	<p>(主観50以上、客観50未満を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術 ↑ ✓ 初等・中等教育 → 事故・犯罪 → 公共空間 ↑ ✓ 	<p>(主観と客観の偏差値50以上を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康状態 → ✓ 自己効力感 → 買物・飲食 → 医療・福祉 ↑ ✓ 地域とのつながり ↓ ✓ 住宅環境 → ✓ デジタル生活 ↑
W (弱み)	<p>(主観と客観の偏差値50未満を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動・交通 ↓ 地域行政 → 遊び・娯楽 ↑ 雇用・所得 → 事業創造 → 多様性と寛容性 → 教育機会の豊かさ → 環境共生 → 自然災害 → 自然の恵み ↑ 都市景観 ↑ 	<p>(主観50未満、客観50以上を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て → ✓ 自然景観 → ✓

市民のウェルビーイング向上のために注力すべき8つの政策領域の選択理由

政策領域① 公共空間

（選択理由）幸福度や生活満足度との相関性が高い。公園やまちなかが心地よく思える居場所であり、人と共有することができれば愛着にもつながる。客観指数も低く改善の余地が大きい。

政策領域② 文化・芸術

（選択理由）客観的数値が低いものの、主観的数値が各世代とも高いのは本市の特徴である。文化・芸術分野に力を注ぐことで、全世代から高い支持を得られ、政策が進めやすい。

政策領域③ 住宅環境

（選択理由）幸福度、生活満足度、町内の幸福度のいずれにも相関性が高く、市民にとっても重要度の高い領域である。

政策領域④ 健康状態

（選択理由）主観指数が非常に高く、幸福度との相関性が高い。健康維持を目指すことや健康に関心を持つことが、自分らしい暮らしを続けたいとの願いにつながり、他の政策領域との関連も深い。

政策領域⑤ 地域とのつながり

（選択理由）他の政策領域とも関連が深く、幸福度を高めるためにはひとりでは難しく、地域とのつながりがあり、孤立しないことが大切である。

政策領域⑥ 自然景観

（選択理由）客観指数が著しく高く、加古川市の潜在的な強みとして挙げられるため、市民が実感できるレベルにまで取組を充実させた場合には一つの大きな特徴に成り得る。

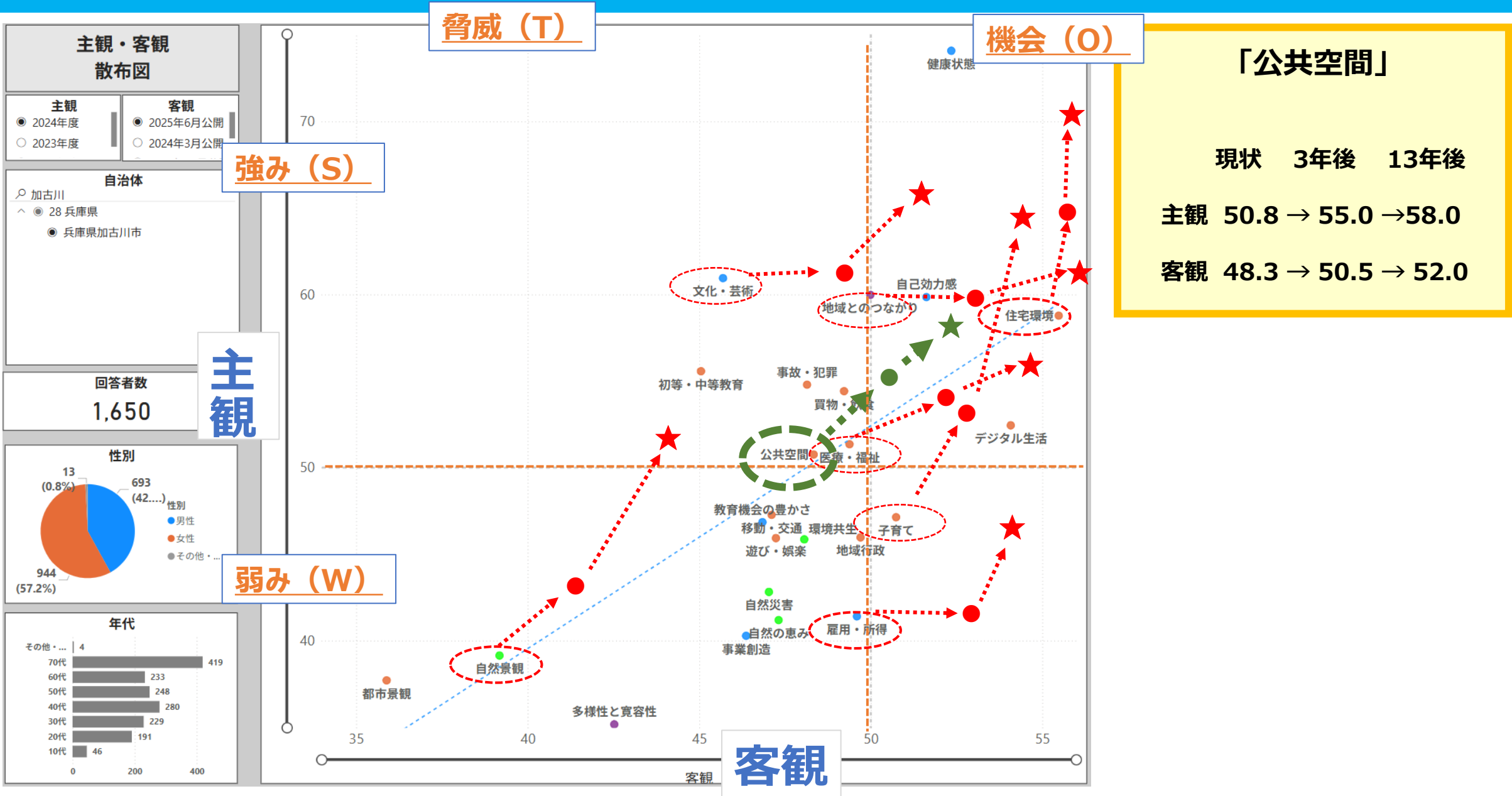
政策領域⑦ 子育て

（選択理由）客観指数と主観指数の乖離が大きく、生活満足度との相関性が高いため、政策の見せ方等で市民の生活満足度の向上に繋がる可能性がある。

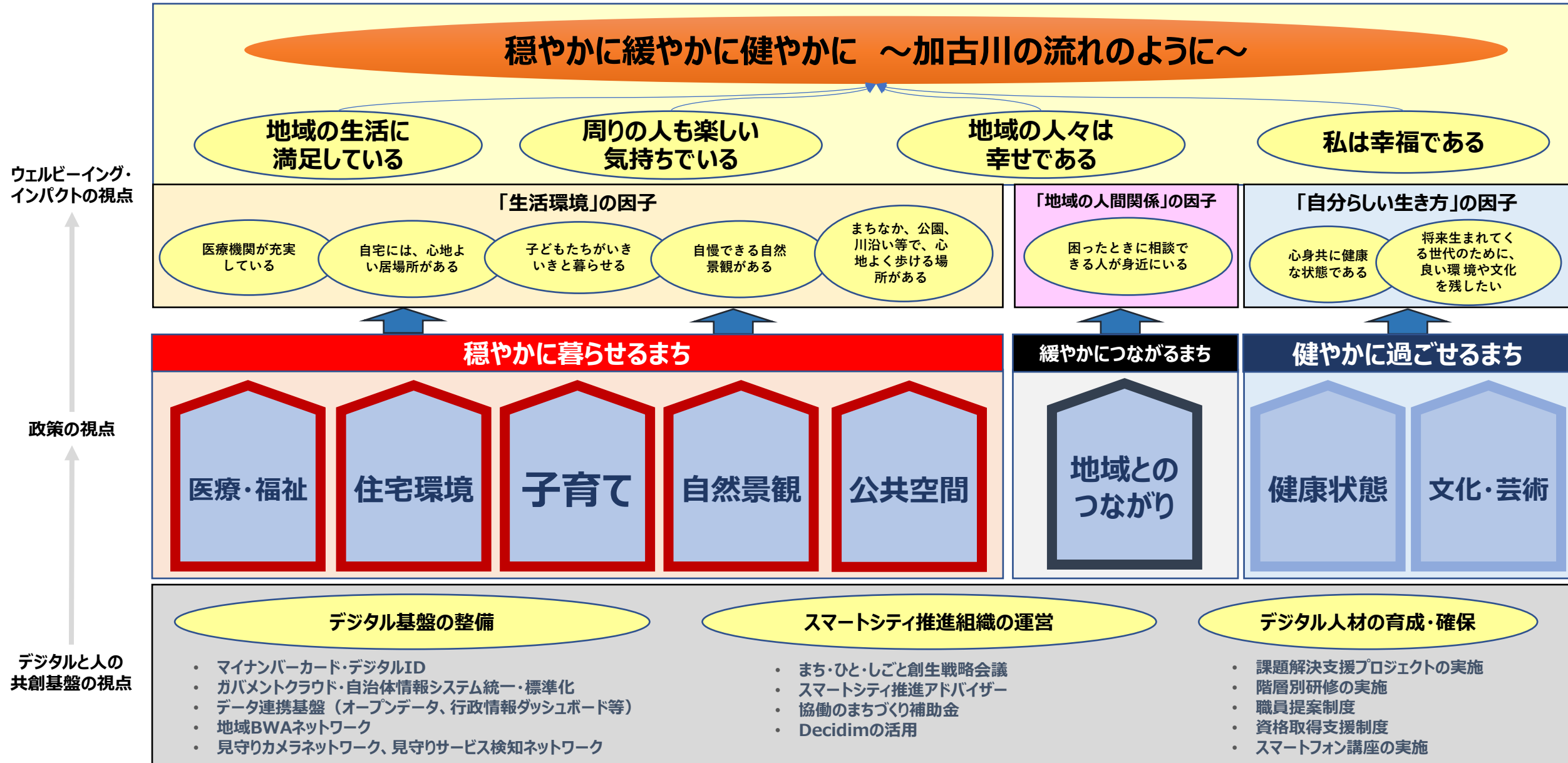
政策領域⑧ 医療・福祉

（選択理由）安心して自分らしい暮らしを続けられるようにするには、生活の基盤として充実させる必要がある。高齢化がますます進む中、④や⑤との関わりも強くなると考えられる。

加古川市 2024年度個別調査 主観・客観散布図 (SWOT)



市が実践すべきウェルビーイング政策の全体を整理した「統合マップ」



市が実践すべきウェルビーイング政策の全体構造の説明

穏やかに緩やかに健やかに ～加古川の流れのように～



本市のシンボルである一級河川「加古川」から想起される、「清らかにゆったりと流れる時間」や「親しみ深い安心な空間」を創出し、出会いやつながりの場として提供することで、そこに住む人たちの新しい価値観や郷土に対する誇りを醸成することを目指す。

穏やかに暮らせるまち



人口増を目指すのではなく、今住んでいる人たちが心穏やかに日々過ごせるまち

緩やかにつながるまち



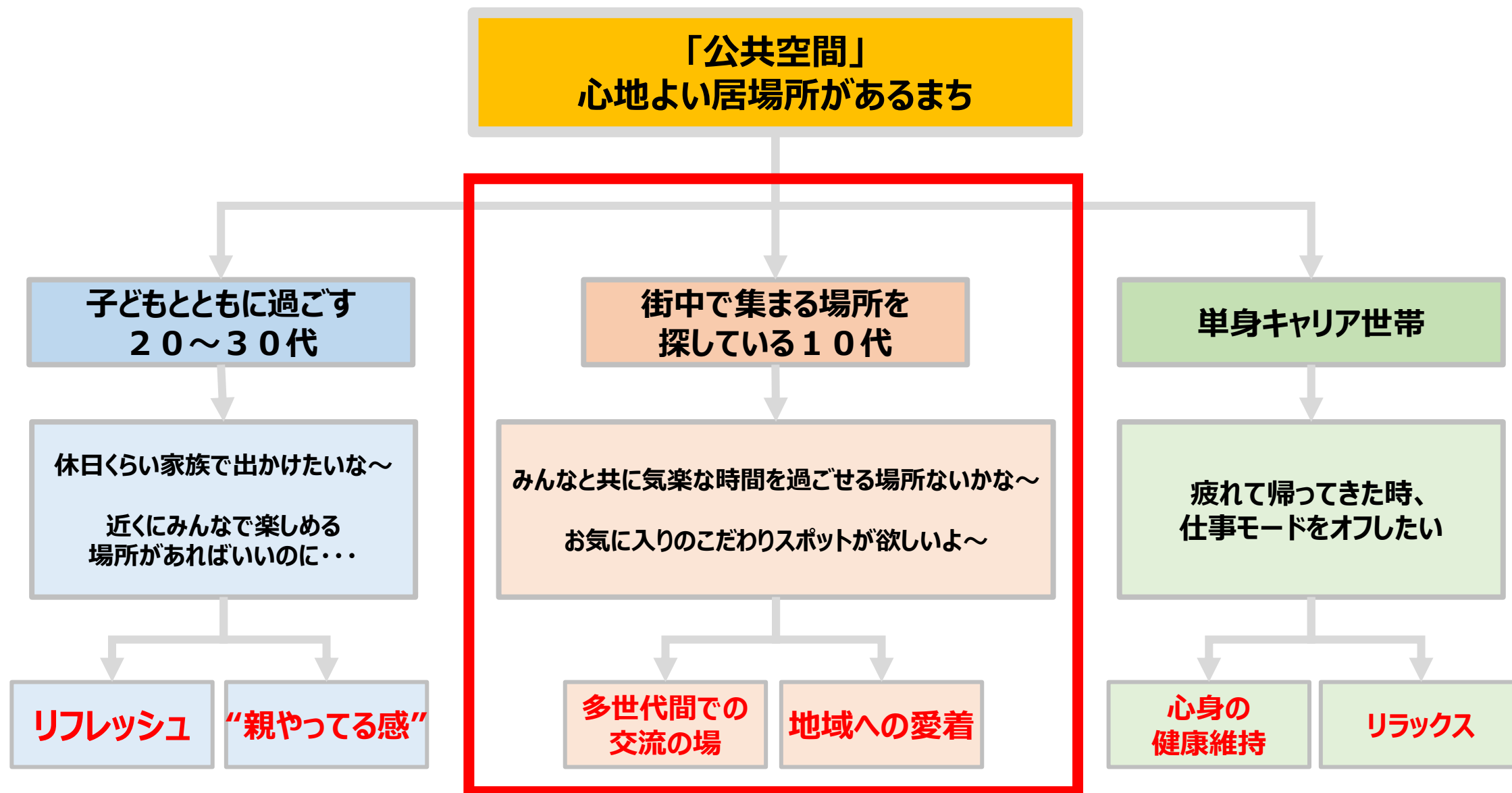
ほどよい距離感で多くの人とのつながりや価値観の共有ができるまち

健やかに過ごせるまち

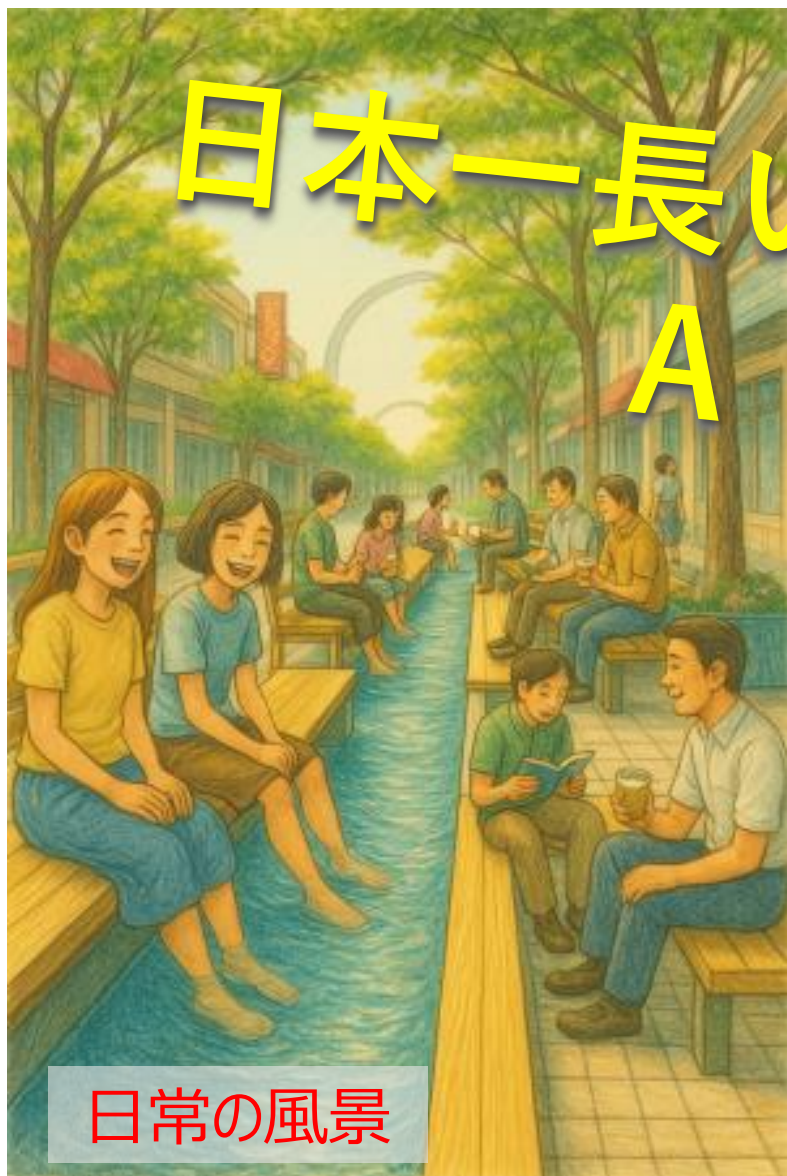


自分だけでなく、周りの人たちも含めて体の健康と心のゆとりを実感することができるまち

インパクトを最大化政策に関するペルソナ・ロジックツリーを選択する



ChatGPT等のAIにて作成した市の未来像に関するイメージ画像



【公共空間】心地よい居場所があるまち 【ペルソナ】 街中で集まる場所を探している10代

現
状

- ・みんなと共に気楽な時間を過ごせる場所ないかな～
- ・お気に入りのこだわりスポットが欲しいよ～

将
来
像

- ・13年後、加古川駅を中心に、多世代間での交流が活発化している。
- ・加古川駅前が友達と自然に過ごせる空間になっている。

インプット

アクティビティ

アウトプット

短期アウトカム

長期アウトカム

ペルソナの
重要因子

総合インパクト

ASHIYU創造事業：
初期投資1億円（半額国庫補助）＋維持管理運営費500万円／年（加古川駅周辺再整備推進課）

日本一長い足湯を設置する（全長111メートル）

足湯の利用者数：3,000人／月

加古川駅前にいきたいと思っている人の割合：50%

おしゃべりベンチ設置事業：初期投資2,000万円＋維持管理費100万円／年（加古川駅周辺再整備推進課）

おしゃべりベンチ＋可動式テーブルを設置する

おしゃべりベンチの利用者数：3,000人／月

世代間での交流ができていて感じる人の割合：50%

イベント開催出店料：2,664千円（111千円×24回）（土木総務課）

居酒屋、盆踊り、夜市、踊っ子、映画上映、サンバなど、多世代が参加できるイベント主催者に場所を提供する

イベントの開催数：月2回×12か月

イベントの参加者数：2,400人／年

おしゃべりベンチ広告事業：500万円／年：5万円／m（土木総務課）

ベンチやテーブルを広告の掲示媒体とする

広告主：100社

加古川駅前に出店意欲を持つ企業の割合：20%

新しい人間関係や出会いによって新たな価値観が育まれたと感じる人の割合：30%

加古川駅前の雰囲気が好きだと思っている人の割合：60%

多世代間での交流の場

地域への愛着

- ・10代の幸福度の向上
7.3 ⇒ 7.5
- ・10代の生活満足度の向上
7.5 ⇒ 7.7
- ・公共空間のインパクト
主観50.8⇒55⇒58
客観48.3⇒50.5⇒52

ここまでの分析作業を通じて判明した、市独自の質問項目や客観指標として追加すべきもの（セカンドレイヤーの質問項目）を記載する

【市独自の質問項目として追加すべきもの】

- ☐ 「加古川駅前の雰囲気が好きである」
- ☐ 「加古川駅前に行きたいと思う」
- ☐ 「世代間での交流ができている」
- ☐ 「新しい人間関係や出会いによって新たな価値観が育まれたと思う」

【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- ☐ 「駅前に一定時間以上滞在した人の数」
- ☐ 「駅前に出店意欲を持つ企業の数」

ご清聴ありがとうございました。

